

気候変動抑制を目指す国連気候サミットにおいて、 アジア・パルプ・アンド・ペーパーが森林に関するニューヨーク宣言に署名



APP会長と国連気候サミット参加チーム。2014年9月

今年9月に行われた国連気候サミット2014のイベントで、アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループのテグー・ガンダ・ウィジャヤ会長が、多くの企業、政府、NGOと共に、森林に関するニューヨーク宣言に署名しました。この宣言の署名者は、経済成長、貧困撲滅、法の支配、食品安全保障、気候復元、生物多様性の保護に貢献しつつ、地球規模の森林消失を減速、停止、反転させるというビジョンに誓約しました。

この宣言は国連事務総長パン・ギムン氏が開催したイベントで公式に認められたもので、森林破壊による温室効果ガス排出の削減と森林再生の増大が気候変動を抑制する鍵であることを明らかにしました。参加者は下記について協力を求められています：

- ・ 2020年までに、世界の自然林消失率を最低でも半分に削減し、2030年までに自然林消失を停止させることを目指す。
- ・ 2020年までに1億5,000万ヘクタールの荒廃した森林景観および林地を再生し、世界の森林再生率を大幅に向上させ2030年までに最低2億ヘクタールを再生する。

各誓約には、2030年までに年間45-88億トンの排出削減を達成するという共同目標を達成するという誓約が含まれています。

APPのテグー・ガンダ・ウィジャヤ会長は次のように述べています。「パン・ギムン国連事務総長は、政府、グローバル企業のリーダー、NGOが参加する、こうした画期的な会議を開くことで、地球と最も危機的な状況にある生態系に多大な貢献をしました。企業がこうした誓約で主導的な役割を担うことはできませんが、森林破壊や気候変動を真に抑制するためには、政府やNGOを含むステークホルダーの皆様と密接に協力していく必要があります。気候変動抑制のための最も効果的な方法のひとつが、森林保護であり、樹木を植えることであり、周囲の自然林を保護することなのです。また林産物が責任を持って管理された植林地から供給されている場合、その製品は炭素を固定し、再生可能であるため、他の手段と比較してより持続可能であると、APPは確信しています」。

APPの持続可能性担当役員であるアイダ・グリーンベリーは次のように述べています。「当社は自然林伐採ゼロ方針を通じ、新興経済国で操業する企業でも、この世界に残された森林を保護するという意欲的な目標を立て、実行し、達成できることを示してきました。当社は、森林サプライチェーンに関わっている企業はこうした方針を直ちに実施すべきだと考えています。無駄にしている時間はありません」。

アジア・パルプ・アンド・ペーパーで20メガワットの太陽光発電プロジェクトが完了

中国の蘇州にあるアジア・パルプ・アンド・ペーパー (APP) の金紅葉工場で屋上太陽光発電プロジェクトが完了し、世界最大級の屋上太陽光発電装置がつけられました。この太陽光パネルは約30万㎡に及ぶもので、サッカーコート42面分に相当します。

この装置は同工場の12の生産施設や倉庫、管理棟すべてに設置された1万枚のパネルで構成されています。

太陽光発電プロジェクトの発電量は2,000万キロワット時になると予想されていますが、これは地域の約6,000世帯に供給できる電力です。

APP中国副社長のMadam Zhai氏は次のように述べています。「中国における再生可能エネルギーへの投資は急速に進行しており、この分野の成長の一端を担えることに誇りを持っています。当社の屋上設備は中国の炭素排出削減に一役買うと同時に、地域コミュニティに電力を供給するものです」。

金紅葉紙業グループはアジア・パルプ・アンド・ペーパーの子会社です。同社は中国国内で4つの製紙工場と16の加工工場を運営しており、その従業員数は1万3,000人を超えています。また、アジアにおける家庭紙やトイレット・ペーパー業界のリーダーであり、50万トン以上の原紙に加え、Virjoy、Breeze、Zhen Zhenといったブランド名で60万トンの最終製品を生産しています。



PEFCがインドネシア森林認証協力プログラム（IFCC）を承認

2014年12月11日にジャカルタで開催されたイベントで、インドネシアの持続可能な林産品の輸出力を強化する新たな取り組みが発表されました。

インドネシアの森林認証協力機構（IFCC）の認証を受けたすべての製品は、Programme for the Endorsement of Forest Certification (PEFC) による認定を自動的に受けることになります。

世界最大級の持続可能な森林認証システムであるPEFCによる承認は、欧州連合とオーストラリアによるインドネシアの木材合法性保証システム（SVLK）の認定に続いて10月に開始されたもので、インドネシアは持続可能で透明性の高い方法で森林管理を行う能力と意思があるという強力なメッセージを発信しています。

同イベントで講演を行ったPEFCインターナショナルの事務局長ベン・ガニバーク氏のコメント：「今回の承認は、依然として高い森林減少率と奮闘している国であるインドネシアの転機となるものです。森林認証は持続可能な森林管理を検証および推進する重要なメカニズムであり、森林が提供する環境・社会・経済的利益を保護しています」。

APPの持続可能性担当役員アイダ・グリーンベリーのコメント：「紙パルプ部門の持続可能性は、当業界の製品をより広い世界市場に製品を届けるにあたって取り組まなくてはならないことです。認証は世界の顧客に承認および信頼されている基準として

機能しているため、取り組みの重要な一部です。

しかし、当社は界のリーダーとして、紙パルプ産業の持続可能な慣行をより迅速に保証するため、認証基準を凌駕することを目指しています。当社が自然林伐採ゼロを誓約し、森林景観におけるさまざまなステークホルダーの皆様との取り組みを続けているのはそのためです」

IFCC認証基準を定めるプロセスは2012年に開始されました。この認証は2019年10月1日まで有効であり、その後更新されることになります。



環境活動家トニー・ジュニパー氏がAPPの森林保護方針に目を向ける

環境活動家トニー・ジュニパー氏が、画期的な自然林伐採ゼロ（Zero Deforestation）誓約の実現を目指すAPPが現在実施している環境保護取り組みについて深く掘り下げた、一連のショートフィルムを制作しました。Friends of the Earthでかつて事務局長を務めた同氏は、持続可能性顧問会社のロバートブリッジの共同創立者としてAPPに対する助言を行ってきました。この仕事の一環として、同氏はインドネシア、スマトラにある多くのAPP原料供給会社を訪問しました。このフィルムは、2013年2月のAPPの森林保護方針の導入に続き、インドネシアで自然林伐採ゼロ方針を実施する

ために必要なこととは何か、十分に理解しようと模索する同氏の旅を記録しています。

トニー・ジュニパー氏は述べています。「インドネシアの熱帯雨林のような環境では、現場に行かなくては、APPのFCPのような画期的な自然林伐採ゼロ方針の実施に必要なこととはなにかを理解することができません。こうしたフィルムにより、世界有数の生物多様性の高い地域における環境保全の課題と可能性について、森林に関する技術的な知識がない視聴者でも全容を理解できるようになればと思っています」

ニュースで見えるAPP

自然林破壊の削減は企業の利となる、とレポートが指摘

Mongabay | レット A バトラー

世界最大級の企業の数社は、自社商品のサプライチェーンにおける森林破壊のリスクの開示とその対処で大きな進展を遂げている（中略）。このレポートは誓約から実行に移した企業の例として、ウィルマー、アジア・パルプ・アンド・ペーパー、カーギル、ユニリーバを取り上げている。

林産業と地球の生き残りのカギとなるコラボレーション

Sustainable Brands | アイダ・グリーンベリー

世界の森林は現実的に死刑執行を猶予されたものと願っている。森林に関するニューヨーク宣言は、世界中の森林伐採の抑制と停止を目指す地球規模の取り組みにおける重大な分岐点となる。

アジア・パルプ・アンド・ペーパーの自然林伐採ゼロ方針はなぜ定着するように見えるのか？

Business Green

NGOの報告書がAPPの既存および計画中のすべての工場を賄える十分な植林地がAPPにあることを確認した。



アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループ（APP）は、インドネシアと中国の紙パルプ製造企業グループの総合ブランド名です。APPグループの企業群は世界最大級の紙パルプ一貫メーカーであり、紙、パルプ、加工製品の合計生産能力は1,800万トンを超えています。APPインドネシアとAPP中国は現在、6大陸の120ヶ国以上で製品を販売しています。APPの大多数の生産工場はSVLK、LEI、PEFCによる加工・流通過程認証を取得しています。

Email: environment@app.co.id